

国内グループ会社

RIMTEC

会社紹介

RIMTEC 株式会社は、日本ゼオンの 100%の関連会社として本社を東京に置き、ゼオン水島工場の第二工場内に研究所と子会社ゼオンリムがあります。また、海外に研究開発機能を有する子会社 Telene S.A.S.(フランス)、瑞翁貿易有限公司(中国/上海)、ZCLP(アメリカ)に販売拠点を置いています。

当社の主力事業は、ゼオン水島工場の独自技術によって C5*留分より抽出される良質なジシクロペンタジエンを主成分に、RIM 成形(反応射出成形)用の配合液 PENTAM®(ペンタム)、METTON®(メトン)および TELENE®(テレン)の配合液開発と販売で、グローバルに展開しています。

RIM 成形は、金型内でジシクロペンタジエンの重合反応と成形を同時に行って大型成形品を生産する独自の技術です。ジシクロペンタジエンを用いた RIM 成形によって得られる樹脂は、熱可塑性樹脂の約半分のエネルギーで成形可能であり、環境負荷の少ない素材です。



桜井 賢典社長



※ C5

ナフサの熱分解によって副生する炭素数 5 の炭化水素。合成ゴムや合成樹脂の原料となる成分も含まれる

環境安全活動

1. 省エネへの取り組み

RIMTEC 水島事業所は、子会社ゼオンリムと協力して省エネ活動に取り組んでいます。引き続き、不要不急の照明および機器の停止のほか、産業廃棄物削減の取り組みを行っています。2014 年度は、試作時の品種切り替え回数を削減する取り組みの結果、切り替え時に発生する産業廃棄物を 2012 年と比べて 40%程度削減することができました。今後もさまざまな活動を通じて地球環境に貢献していきます。

2. 地球環境の貢献に向けた研究開発

当社の製品によって得られる樹脂は、熱可塑性樹脂よりも省エネに貢献できるため、積極的に研究開発を継続し地球環境に貢献していきます。2014 年度 欧州にて浄化槽の性能検査を実施し、水質規格の承認を得ました。今後、浄化槽普及に向けて積極的に展開し、地球環境に貢献します。

3. 環境関連データ

RIMTEC(株)		2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度
PRTR 法対象物質	対象物質数	0	0	0	0	0
	使用量(トン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(トン)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
産業廃棄物	減容前発生量(トン)	52	29	52	49	23
	埋立処分量(トン)	3.6	3.4	15.2	2.4	1.3
水資源(工業用水+地下水+上水道)使用量(千 m ³)		-	4.4	3.6	2.2	1.5
CO ₂ 排出量(トン)		187	167	188	160	110
エネルギー使用量(原油換算、kL)		160	145	160	138	90

地域との共生活動

1. 「おもしろ体験でえ〜」への参加

テクノサポート岡山で毎年開催されている「おもしろ体験でえ〜」に出展し、2014 年も約 600 人のお子さんに「プラスチックに変身する不思議な液体」を体験していただきました。昨年度に引き続き、化学の楽しさをより強く体感してもらうため子どもたちに白衣を着てもらったところ、目をキラキラ輝かせながら興味深く参加している様子がとても印象的でした。今後もこのような機会を通じ、将来を担う子どもたちに化学の不思議や楽しさを伝えていくことにより「ものづくり」への興味を促し、地域産業の継続的發展に貢献していきます。



化学の不思議体験に子どもたちは興味津々！

2. 産学連携による研究開発

RIMTEC 水島研究所は、地元岡山大学と共同研究を継続しています。2014 年度も引き続き、岡山大学主催の「岡山大学 知恵の見本市 2014」に RIMTEC 単独ブースとして研究成果物を出展しました。企業、官庁、大学関係者、学生など多くの方々に来場いただき、RIMTEC ならではの特長ある技術に大変興味を持っていただくことができました。

岡山大学では、産学連携による研究の推進、新技術の開発を通じて、産業への貢献を活発に進めています。当社も引き続き、産学連携による新技術開発に邁進していきます。

3. 中国地方での産業創出

産学連携によって得られた成果物をより具体化させるために、岡山大学、広島大学、公益財団法人ちゅうごく産業創造センターとの定期勉強会を開催しています。この活動を継続し、中国地方で生まれた技術をもとに新たな産業創出に向けた活動を進め、地域の活性化につなげていきます。



岡山大学と公益財団法人ちゅうごく産業創造センターとの定期勉強会の様子

4. 次世代パワーデバイス研究会

2013 年度に引き続き「次世代パワーデバイス研究会」へ参加しています。2014 年度は、より具体的な取り組みへと移行すべく、より専門的な討論を行ってきました。当社材料も次世代の高耐熱樹脂材料として紹介されました。この研究会を通じて、具体的な開発案件を獲得することができました。今後も引き続き、研究会へ参加し地域活性化に貢献していきます。

5. 国際会議での発表

2014 年 6 月 1 日～5 日に電気絶縁材料の国際会議 ISEIM にて、当社が九州工業大学、早稲田大学と共同開発した絶縁樹脂材料を、それぞれの組織で発表しました。「熱硬化性オレフィン樹脂」というユニークな特徴を持つ素材であることから、国際的にも関心を持っていただけました。今後も学会活動を継続し、環境負荷の少ない素材を広めていきます。